ご縁をつむいで 仙台をつくる

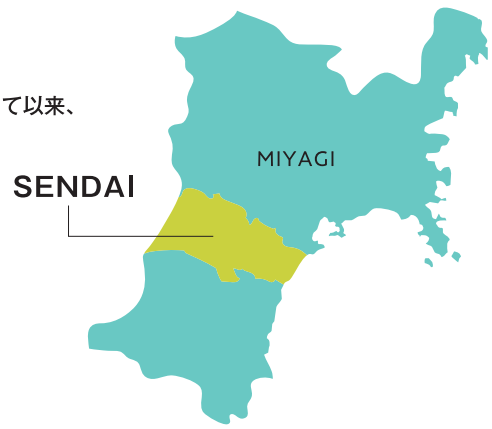
企業版
ふるさと納税の
ごあんない

事業特集号
Vol.5

仙台市企業版ふるさと納税

仙台市

仙台市は1600年に伊達政宗公が居城を定めて以来、
雄藩の城下町として栄え、
明治22(1889)年の市政施行後
100年の節目である平成元年(1989)年に
政令指定都市となりました。

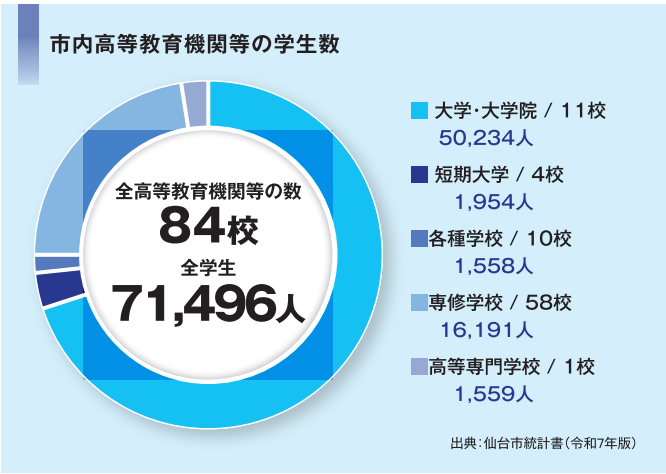


杜の都・仙台

仙台市は人口109万人を有し、東北地方の政治と経済の中心地です。大都市でありながら、自然と調和した「杜の都」として知られています。市内を流れる広瀬川、そしてケヤキ並木といった美しい自然があります。市内中心部も緑にあふれ、木々が生い茂る通りや公園がたくさんあります。

学都・仙台

大学をはじめとする教育機関が集積しており、多くの若者がこの地に集い、学ぶ「学都」です。世界最先端の性能を誇る3GeV高輝度放射光施設NanoTerasuや国内初の「国際研究卓越大学」に認定された東北大学など、高度な研究開発環境を有する都市として世界から注目を集めています。



防災環境都市・仙台

豊かな自然と都市機能が調和した「杜の都」という都市の個性に、東日本大震災の経験と教訓により高めてきた防災性を職り込んだ「防災環境都市づくり」を進めています。国際的な防災の指針「仙台防災枠組」の採択都市でもあり、仙台市における復興や防災の取り組みは、国際的にも高く評価されています。

PICK UP

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備

文化芸術と災害文化が融合することにより、新たな価値を創出し世界へ発信する杜の都の新たなシンボルの整備

未来に向け、みんなの力で
暮らしやまちを豊かに

＜関連サイト＞

Instagram

X

外観イメージ

生の音の響きを追求した2,000席規模の音楽ホール

生の音源に対する音響性能を重視するとともに、多様なジャンルに対応するための転換機能を備えた2,000席規模の大ホールを整備します。クラシックコンサートで活用する際は、舞台の周りを客席が取り囲むサラウンド型となることが特徴であり、これは2,000席規模の転換型のホールとしては国内初の取組みとなります。

「防災環境都市・仙台」から災害文化を未来へ継承する拠点

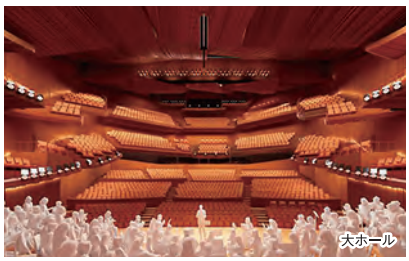
人が災害を完全に予測し、食い止めることはできません。そして、災害は発生するものです。東日本大震災の復興の過程で得られた、災害を乗り越えるための知恵や術（すべ）を「災害文化」として創造し、社会の仕組みに定着させるとともに、その知見を世界に発信する拠点を目指します。

藤本壮介氏が設計する世界に類のない複合施設

多様な活動が共存し響き合うこと（たくさんの響き）と、それらが時にはひとつにつながること（ひとつの響き）が連鎖していき、人と人、過去と未来が結びつくというコンセプトのもと、大阪・関西万博の会場デザインプロデューサーを務めた世界的建築家の藤本壮介氏が設計しています。様々な諸室・機能・居場所をつなぐ象徴的な吹き抜け空間を有し、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴することで、新たな文化を創造する土壌が生まれるよう設計されています。

Jan Buus

藤本 壮介
（フジモト ソウスケ
／Sou Fujimoto）
藤本壮介建築設計事務所 代表。
建築家。
2025年大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー等を歴任


大ホール

大ホールでのコンサートイメージ

災害文化　ワークショップイメージ

乳幼児を含むこどもたちへ文化芸術体験を届けることを事業の大きな柱とします。

PICK UP

仙台城の顔「大手門」復元プロジェクト

戦火により失われた大手門を現代へと蘇らせ まちへの誇りと愛着を育みます

大手門の正面からの整備イメージ

＜関連サイト＞

市HP

X

Instagram

伊達政宗公没後400年に向けた長期プロジェクト

仙台市では、伊達政宗公没後400年となる令和18年に向け、大手門の復元に取り組んでいます。大手門は江戸時代初期から仙台城の正門として機能し、木造二階建てながら高さ12.5mという全国最大級の規模を誇りました。明治から大正期には陸軍第二師団司令部の正門として使用され、昭和6年には大手門脇櫓とともに国宝に指定されましたが、昭和20年の仙台空襲により焼失しました。

その姿は古写真や絵葉書に多く残され、大正14年の青葉山公園開園時には一般開放されるなど、市民に長らく親しまれてきました。こうした象徴的な景観を現代に蘇らせることで、まちへの誇りや愛着を育み、仙台城跡や青葉山エリアの観光推進につなげていきます。

焼失前の大手門の様子（仙台市博物館蔵）

歴史に触れ、訪れやすく、より楽しめるエリアへ

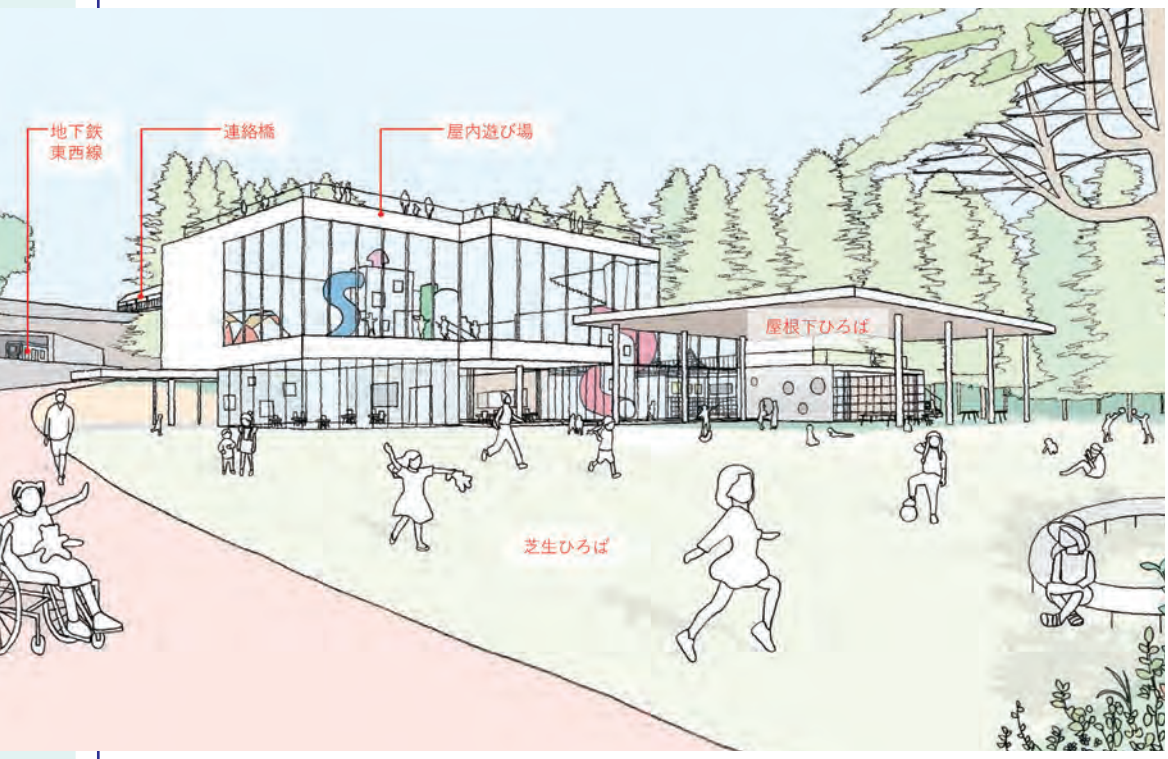
プロジェクトは大手門だけでなく、周辺エリアを含めた一体的な整備事業として取り組みます。これまで外観しか見られなかった大手門脇櫓は改修を行い、令和11年度から内部公開を予定しています。大手門の裏側には広場空間を整備し、本丸跡まで急坂が続く登城路についてもアクセス改善に取り組みます。こうした整備を実施することで、仙台城跡がより訪れやすく、歴史に触れられる場所として再生し、市民や来訪者に一層親しまれるエリアをめざします。

大手門下から見た大手門南西エリアの整備イメージ
仙臺緑彩館から見た大手門の整備イメージ
史跡仙台城跡整備全体イメージ
※今後、整備内容を変更する場合があります。

PICK UP

こどもの遊びの環境の充実

こどもたちの明るい未来へ「笑顔あふれる杜の都の屋内遊び場」の整備



＜関連サイト＞

市HP

Instagram

基本理念は「広がる遊びと、かがやくこどもの未来 ～笑顔あふれる杜の都の遊び場～」

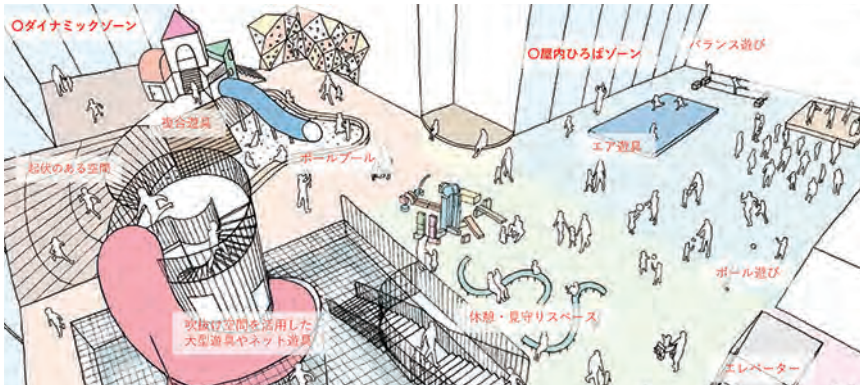
こどもの健やかな成長の原点ともいえる遊びの環境の充実に向けて、「（仮称）西公園屋内遊び場」の整備を進めています。計画地である西公園は、仙台市の豊かな自然を代表する広瀬川が近くを流れるとともに、都心部と青葉山エリアという、都市個性が際立つ魅力あるエリアの結節点に位置しています。「杜の都」を象徴するこの場所で、こどもたちの笑顔があふれる遊び場の実現を目指しています。

仙台らしさを感じられる場所で、自分らしく遊べる場所に

屋内遊び場の延床面積は約3,700㎡。広々とした空間に「ダイナミックゾーン」や「工作・アトリエゾーン」、「読書・くつろぎゾーン」等の8つのゾーンを計画し、こどもたちの多様な遊びや体験機会を創出します。施設の西側を流れる広瀬川に向かって半屋外空間（屋根下ひろば）を設け、自然を生かした遊びや外遊びを促進することで、屋内と屋外で連続した遊びを実現し、屋内に留まらず遊びが広がる施設としていきます。また、こどもたちが自分らしく遊ぶことのできる機能として、インクルーシブな空間づくりにも取り組んでいきます。

令和11年中の開館を見据えた今後の取組について

開館を心待ちにするこどもたちや子育て家庭の皆様のために、早期整備に取り組んでおり、令和8年度に設計を行い、令和9年度から工事を始め、令和11年中の開館を目指しています。これと並行して、立体駐車場や地下鉄駅出入口がある西公園上段と屋内遊び場の屋上を結ぶ連絡橋といった、屋内遊び場へのアクセス環境を向上させる取組も進めていきます。また、魅力ある施設運営の実現を目指し、多様なご意見をうかがいながら、実施する事業や開館時間などの利用情報について整理を進めていきます。



PICK UP

リサーチコンプレックス形成推進事業

最先端の研究開発から事業化、人材育成までを一体的に展開し、新たな産業技術と付加価値を世界へ発信します

＜関連サイト＞

リサーチコンプレックス

仙台市の目指す リサーチコンプレックス

仙台市では、多様な研究機関や企業が集い、地域企業と共に新しい価値を創出する「リサーチコンプレックス」の形成を進めています。

「3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」、東北大学の「サイエンスパーク構想」とともに、仙台市の「せんだい都心再構築プロジェクト」や「共創型ウェットラボ整備」など産学官の取り組みを連動させ、十字に走る地下鉄沿線上に研究・産業の集積を図ることで市全体に分野の垣根を越えた共創が広がる環境を構築します。

さらに最先端研究に取り組む企業が実証に挑戦しやすい場の提供と、事業化につながる伴走支援を一体的に進めることで、仙台から継続的にイノベーションが生まれる好循環の創出を目指します。

仙台市のナノテラス 利活用促進策

ナノテラスは「ナノまで見える巨大な顕微鏡」と言われ、仙台市の東北大学青葉山新キャンパス内にて、令和6年4月から運用を開始しました。活用分野は先端材料や電子デバイス、創薬、医療、省エネ、環境、食、農業など多岐にわたり、様々な社会課題への応用が期待されています。

仙台リサーチコンプレックスイメージ図

仙台市では、市が保有する年間2,000時間のナノテラス利用権を、全国の企業等が利用料のみの負担(1時間あたり39,900 円)で利活用できる「NanoTerasuシェアリング2000」を運用しています。加えて、専門家による事前相談、測定支援に関する分析会社や大学等への委託費の一部補助、自社持込サンプルのお試し測定ができる測定研修会等の支援策により、ナノテラスの利活用促進に取り組んでいます。

また、次世代を担う高校生などに向けた測定体験や視察会など、教育分野におけるナノテラスの利活用も実施しています。

共創型ウェットラボの整備促進

市内外からの研究開発型スタートアップのニーズ増加に対しリサーチコンプレックス推進のための共創型ウェットラボ整備を進めています。既存物件のリノベーションによりウェットラボを整備する民間事業者を対象に工事費の1/2(上限あり)の補助金を交付します。令和8年3月には、民間事業者と連携し、仙台市東部エリア(六丁の目)に整備のモデルとなる施設「MEDIUM(メディウム)」を整備しました。同施設にはウェットラボ5室を備えており、多数の企業から関心が寄せられています。引き続き、既存物件のリノベーション等の手法により共創型ウェットラボ整備を促進します。

ナノテラス内での研修風景

PICK UP

防災環境都市づくり推進事業

「杜の都」の豊かな環境を活かし、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、災害や気候変動などの脅威にも備え、市民の皆様が暮らしやすさを実感でき、さらに国内外から選ばれる「防災環境都市」を目指しています。

「防災環境都市づくり」に向けて、「まちづくり」、「ひとづくり」、「経験と教訓の伝承」の3つの柱で事業を展開するとともに、国際的な防災の指針「仙台防災枠組」の採択都市として、枠組の推進に率先して取り組んでいます。

多様なステークホルダーが担う防災・減災へ

世界へ誇れる「防災環境都市づくり」には、自治体だけでなく、市民団体・地域・学術機関や企業など、あらゆる担い手（ステークホルダー）の主体的な取り組みが必要です。本市では、市民が活動を発信する「仙台防災未来フォーラム」の開催、情報プラットフォーム「防災環境都市・仙台　モリノカレッジ」の運営、「仙台防災枠組講座」等を通じて、多様なステークホルダーとの協働を進めています。

震災の経験や教訓を国内外へ発信

国内外の防災関係者の視察・研修の受け入れや国際会議への出席により、経験や教訓の積極的な発信にも取り組んでおり、2024年には、国連防災機関のプロジェクトで他都市支援の役割を担う「MCR2030レジリエンス・ハブ」に国内初の認定を受けました。2027年秋には、国連防災機関主催の「アジア太平洋防災閣僚級会議」の仙台開催が予定されています。引き続き、多様なステークホルダーと連携しながら、経験と教訓を発信していくことで、世界の防災・減災に貢献していきます。

＜関連サイト＞

市HP

仙台防災枠組講座

防災環境都市・仙台
モリノカレッジ

仙台防災未来フォーラム

MCR2030レジリエンス・ハブ認定

PICK UP

アートによる定禅寺通エリア魅力創出事業

現在進行する定禅寺通再整備工事の完了後を見据え、アートで定禅寺通に新たな魅力や賑わいを創出します

※完成イメージ（定禅寺通再整備方針より）

「定禅寺通再整備方針」でうたう「ひと中心の空間」の具現化を目指し、ハード面のみならず、ソフト面で定禅寺通のアップグレードを図り、さらなる魅力を創出することで定禅寺通を日常的に多様な人々が集い、憩い、何度でも訪れたくなるような市民の庭へと作り上げていきます。

令和8年度は2度目のアートイベントを開催予定

令和７年度は、定禅寺通でのアート作品の展示や、東北芸工大と連携した公開講座、せんだいメディアテーク館内でのアート作品の展示（オン・ディスプレイ）などを行いました。

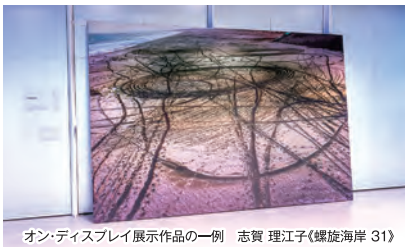
令和8年度は、将来的に大規模なアートイベントを開催することを見据えた社会実験として、市民や地域を巻き込む形態のアートプロジェクトを盛り込んだ2度目のアートイベントの開催を予定。また、せんだいメディアテークにおける「オン・ディスプレイ」の追加展示も実施します。さらに、本イベントは障害者アートの取り組みと同時開催を予定しており、相乗効果を生み、エリア内の回遊性のさらなる向上を目指します。

障害者アートプロジェクトの実施

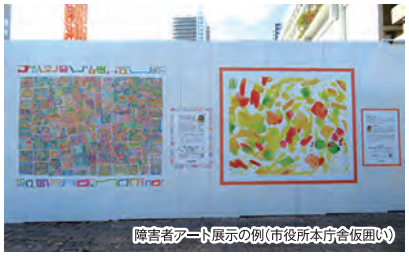
定禅寺通エリア周辺の企業やビル・店舗など地域の皆様にご協力いただき、市内で活動する障害のある作家の方が制作した作品を中心に展示するイベントを開催予定です。街なかを個性豊かな作品で彩り、道行く人が自由に鑑賞し楽しめる空間を創ることで、障害理解の更なる推進や、障害のある方のアート活動を通じた活躍を応援します。

＜関連サイト＞

市HP



オン・ディスプレイ展示作品の一例　志賀 理江子《螺旋海岸 31》



障害者アート展示の例（市役所本庁舎仮囲い）

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは？

国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。通常の地方公共団体への寄附における損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、税額控除（寄附額の最大6割）により、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が寄附額の約1割まで圧縮されます。

活用するメリット

- **●寄附額の最大約9割の軽減効果を活用しながら、地方創生を応援できます！**
- **●社会貢献や企業のPRをはじめとする事業展開につながります！**

寄附額

企業版ふるさと納税

通常の寄附

損金算入	税額控除	企業負担
約3割	最大6割	約1割

例 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減

①法人住民税	寄附額の4割を税額控除（法人住民税法人税割額の20%が上限）
②法人税	法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除 ※ただし、寄附額の1割が限度（法人税額の5%が上限）
③法人事業税	寄附額の2割を税額控除（法人事業税額の20%が上限）

税額控除の手続（申告）や算出に関しては、税理士や所管する税務署へご相談ください。

留意事項

- 本制度を活用して仙台市へ寄附ができるのは、仙台市外に本社がある企業です。
- 1回当たり10万円以上の寄附が対象です。
- 寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

寄附の流れ

ご相談・お申し出
企業様　企業様のご意向に沿って、寄附対象事業の決定を行います。
まずは下記の問い合わせ先（政策企画課）までご連絡ください。
対象事業や寄附金額が決定しましたら、寄附申出書をご提出いただきます。

▼

ご寄附
仙台市　振込用口座をご案内いたします。
※納付書による払い込みも可能です。
企業様　指定口座への振込により
ご寄附が完了します。
※振込手数料はご負担いただきます。

▼

税申告のお手続き
仙台市　受領証を発行いたします。
企業様　受領証を使用し、税務署での税申告の
お手続きをお願いいたします。

事業の詳細は
仙台市公式HPをご覧ください

電子申請での
寄附の申し込みが可能です

これまでご寄附いただいた企業様を
下記特設ページにてご紹介しております

令和3年度　令和4年度　令和5年度　令和6年度　令和7年度

問い合わせ先
仙台市まちづくり政策局
政策企画部政策企画課
〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL /022-214-1245　E-mail/ mac001620@city.sendai.jp

令和8年3月発行